



## お子さんの持ち味は何？



子どもにはその子それぞれの持ち味や特徴があります。元気な子、おとなしい子、虫が大好きな子、絵を描くのが好きな子、とにかくおしゃべりな子……。100人の子どもがいれば100通りの持ち味があります。だから子どもはおもしろくてかわいいのです。だからお母さんやお父さんはその子に合った育て方をするのです。

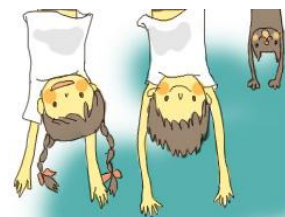
ところが、今の世の中は情報があふれていて、こういう育て方が良いとか、こんな育て方はダメだとか、さらには、こういう特徴がある子は「○○○だ」「○○の疑いがある」などとTVや雑誌で特集され、お母さんやお父さんを心配にさせてしてしまうことが多いのです。しかし、「その子にあった育て方をする」という点では、どんな持ち味であろうと変わりはないのです。お母さんやお父さんはその子の持ち味に合った育て方をするだけです。その子が幸せになるかどうかは、その子の持ち味とも能力とも関係ありません。その子がどれだけ大切に育てられたかによるのです。そもそも、持ち味に良いも悪いもありません（困ってしまうことは多々ありますが・・・）。ただ、「そういう持ち味だ」というだけです。さらに言うのであれば、この育て方は失敗だった、ということもありません。確かに、信じておこなってきた育て方がその子には合わなくて、子どもに悲しい思いをさせたりお母さんが困ったり、ということはありません。そもそも、子育てはいつも上手くいくものではありません。むしろ上手くいかないことの方が多いくらいです。大切なのは、お母さんやお父さんの「幸せになってほしい」という気持ちなのです。「大切にされている」という思いは必ず伝わるものだからです。

### 分かりにくい持ち味のお子さん

とはいえ、子育てで困ることや分からないことが本当に多くあるのもまた事実です。

多くの場合は、「いつもはいい子なのに、なんでこんな事をするんだろう??・・・」です。そのぐらいでも十分にお母さんの悩みになるのですが、時には、がんばっても上手くいかず、どのように接してよいかわからず、考えても、気持ちがわからず、伝わらず、悲しくて悲しくて途方にくれてしまうこともあります。お母さんと子どもがそれぞれを求め合っているのに上手くいかない、という切ないことは本当によくあるのです。

そんな時はどうしたらよいのでしょうか？ 大切なのはお子さんに対する気持ちを信じ、正しい情報を持ちそれを上手に使う、ということです。情報に振り回されず、そこからその子にあった育て方を学ぶことなのです。



そこで、持ち味について少し説明をしてみたいと思います。例えば、子どもの行動はくしゃみと同じ、と考えてみます。風邪をひいても、花粉症でも鼻に何かが入ってもくしゃみは出ます。同じ行動でも原因は様々です。くしゃみでもその原因によって対処は違います。つまりその原因を考えることが大切なのです。例えば、「落ちつきがない」という行動を見てみましょう。その原因として考えられることとして

#### 体が不器用

落ち着いてじっとしているためにはそれなりの筋力が必要です。体に力がなければ落ち着きもなくなります。

不器用には目の使い方が不器用というの也有ります。視力は良いのですが、動いているものを追うのが苦手だったり、たくさんの中から一つを見つけるのが苦手、などといった場合も時には落ち着けなくなってしまいます。

#### 感受性がつよい

耳や目が良いためにより多くの情報を受け取ってしまい、それが気になって落ち着けなくなってしまうのです。

#### 状況判断が苦手

他の人のお話の意図が分からないので（意味が分からのではなく）、どうして良いか分からず、うろうろしてしまう。

#### 物の見方が部分的

周囲を見ずに目的だけに向かって一直線に走って行ってしまいます。

この原因となる要素が「持ち味」なのです（もちろん、他にも「持ち味」はあります）。

また、逆にこれらの原因が他の行動として現れることもあります。

例えば

感受性が強い →少し触っただけでも「痛い」と感じてしまう。→ひどいことをされた  
と返しをしてしまう→何にもしていないのに〇〇君が叩いた→乱暴  
な子と思われてしまう。

物の見方が部分的 →食器を落とした事を「ダメでしょ」と叱られた→食器を落としたとい  
う状況は入らず「ダメでしょ」しか入らない→私は（すべてが）ダメ  
な子なんだ・・・→落ち込み自信が無くなってしまう。

などです。

## 持ち味は大切に

どの持ち味でもそうですが、本人は一生懸命なのです。でも、周りからは分かってもらえない、自分も自信をなくしてしまう、というところが一番つらいのです。子どもの行動でお母さんが困る時、実は子どもも困っているのです。その時こそ、子どもは助けを求めているのです。

「持ち味」に良いも悪いもありません。どんな「持ち味」でもそれはその子の持っている大切な宝物です。それを変える必要はないと思います。

ここに「落ちつきがない」という持ち味を持つ子がいるとします。しかし、先ほど説明した「感受性が強い」が原因だった場合、将来は「よく気が付く、気配りのできる人」となる可能性があります。考えてみれば、色々な情報を感じ取っているわけですから、当然といえます。実際に「気配りのできる人」の多くの方が子どものころは「落ちつきのない子」だったと言っています。

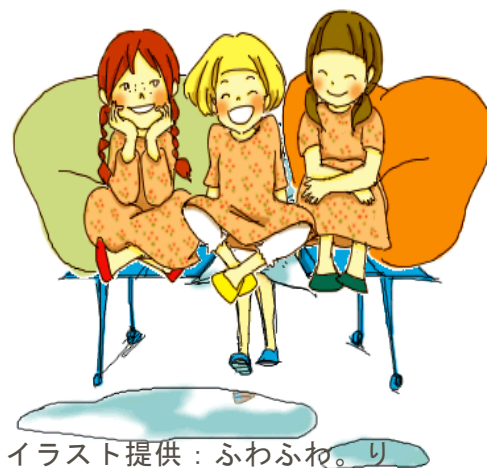
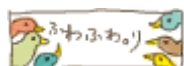
要は、持ち味はそのまま、出方を良い方向に向けましょう、ということなのです。そのためには、先ほどから述べているように、その子の持ち味を理解し、自信が持てるようにすることです。

妊娠したとたん、周囲からの呼び方が「〇〇さん」から「お母さん」に変わることはよくあります。子育てが上手くいかないからといって、決して〇〇さんがダメなわけではありません。〇〇さんの中の「お母さん」という役割の部分がたまたま上手くいっていないだけなのです。年齢が上でも、「その子のお母さん歴」はその子の年齢分だけしかないわけですから、そうそう上手くいく訳がありません。少しずつ学んでいけばよいのです。

また、中にはどうしてもお子さんに愛情が持てない、というお母さんやお父さんもいらっしゃるでしょう。しかし、それは必ずしもお母さんやお父さんのせいではないのです。愛情が持てない事情というものがあるのです。それは、子どもにとっての不幸であり、お母さんやお父さんの苦しみの結果なのです。

だからと言って許されないことがあります。お母さんやお父さんが子どものころや体に傷を負わせることです。そんな時こそ勇気を持ちましょう。ご自身の苦しみと向き合うのです。それは苦しくて辛い事だと思います。しかし、勇気を持った時、お母さんやお父さんは一人ではありません。一緒に考えてくれる人が必ずいます。お母さんやお父さんの幸せも大事なのですから。

子どもの持ち味で迷った時、困った時、そんなときは気楽に相談してみましょう。その困り感や迷い、苦しみは、その子のせいでもお母さんやお父さんのせいでもないのですから。その子の持ち味、(お母さんの持ち味も)を一緒に考えて、どうすれば子どもやお母さんお父さんが楽しく幸せにすごせるかを考えましょう。



イラスト提供：ふわふわ。り